

Arcserve UDP v6 動作要件

(ベアメタルリカバリ対応)

2016年9月16日更新

Arcserve UDP v6 ベアメタルリカバリ機能の対応機種（物理環境）です。
本ドキュメントに記載のない機種の対応状況については、当社担当営業までお問い合わせください。

索引

- [Windows サーバー ベアメタル リカバリ対応](#)
 - ・ [FUJITSU Server PRIMERGY 対応機種](#)
 - ・ [留意事項](#)
- [Linux サーバー ベアメタル リカバリ対応](#)
 - ・ [FUJITSU Server PRIMERGY 対応機種](#)
 - ・ [留意事項](#)

Windows サーバー ベアメタル リカバリ対応

FUJITSU Server PRIMERGY 対応機種

ラックサーバ	タワーサーバー	ブレードサーバー（注 1）
RX100 S6/S7/S8	TX100 S1/S2/S3	BX2560 M1/M2
RX200 S6/S7/S8	TX120 S2/S3	BX2580 M1/M2
RX300 S6/S7/S8	TX140 S1/S2	
RX350 S7/S8	TX150 S7/S8	
RX500 S7	TX200 S7	
RX600 S6	TX300 S6/S7/S8	
RX4770 M1/M2	TX1310 M1	
RX1330 M1/M2	TX2540 M1	
RX2520 M1	TX1320 M1/M2	
RX2530 M1/M2	TX1330 M1/M2	
RX2540 M1/M2	TX2560 M1/M2	
RX2560 M1/M2		

注 1 マルチデバイス構成はサポート対象外

留意事項

- ベアメタル リカバリの対象は、PRIMERGY の内蔵ハードディスクのみとなります。ETERNUS ディスクアレイの復旧は、ベアメタル リカバリ後に行ってください。
- Windows Server 2012 以降の記憶域スペースが存在する環境のベアメタル リカバリでは、記憶域スペースは作成されません。ベアメタル リカバリ後に記憶域スペースを再作成し、データをリストアしてください。
- ベアメタル リカバリに使用する復旧用メディアを作成する際は、Windows ADK（Windows アセスメント&デプロイメント キット）を Microsoft 社のサイトよりダウンロードし、インストールする必要があります。
- 復旧用メディア作成時に必要となる Windows ADK のバージョンは、復旧対象となるマシンの OS によって異なります。また、復旧対象マシンのストレージ（ハードディスク等）やネットワークを認識させるためにデバイスドライバが必要な場合は、復旧用メディアの作成時（または 復旧作業時）、対応するデバイスドライバが必要です。

以下の表を参考に、必要な Windows ADK のインストール、および、デバイスドライバを用意してください。

復旧対象マシンの OS	必要な Windows ADK とデバイスドライバ	
	Windows ADK 8.1 (Windows 8.1 用)	Windows ADK 8.0 (Windows 8 用)
Windows Server 2008 (32bit)	—	Windows Server 2008 (32bit) 用
Windows Server 2008 (64bit)	—	Windows Server 2012 用
Windows Server 2008 R2	Windows Server 2012 R2 用	Windows Server 2012 用
Windows Server 2012	Windows Server 2012 R2 用	—
Windows Server 2012 R2	Windows Server 2012 R2 用	—

Linux サーバー ベアメタル リカバリ対応

FUJITSU Server PRIMERGY 対応機種

ラックサーバ	タワーサーバ
RX1330 M2/M3/M4 RX1320 M2	TX1330 M2/M3/M4 TX1320 M2/M3/M4

留意事項

- オンボード SATA コントローラ上で構成されたソフトウェア RAID (Embedded MegaRAID Linux) 環境のベアメタル リカバリは対応していません。
- ベアメタル リカバリの対象は、PRIMERGY の内蔵ハードディスクのみとなります。ETERNUS ディスクアレイの復旧は、ベアメタル リカバリ後に行ってください。

- ベアメタル リカバリでは、Arcserve UDP Linux Agent によって作成される LiveCD の他に、CentOS-LiveCD をベースに作成した CentOS ベース LiveCD を使用できます。CentOS-LiveCD は、CentOS の公式サイト等からダウンロードしてください。
- CentOS ベース LiveCD 作成時に使用する CentOS-LiveCD は、以下の Arcserve 社サイトを参照ください。

CentOS ベースの Live CD 作成をサポートする CentOS Live CD ISO イメージのバージョンについて
<https://support.arcserve.com/s/article/115005875786?language=ja>

- CentOS ベース LiveCD 作成時に使用する CentOS-LiveCD は 64bit を使用してください。
- CentOS ベース LiveCD では、PXE ブートでのベアメタル リカバリは実行できません。
- CentOS ベース LiveCD 内にドライバを追加で組み込む場合、作成時に使用した CentOS-LiveCD と同じバージョン用のドライバを使用してください。